



# いじめを 解決するための 大人の役割（前編）

長田 清

おきなわCAPセンター代表理事  
長田クリニック(心療内科)院長

6月15日（日）那覇市てんぶす館テンプスホールで行った「いじめを解決するための大人の役割」講演会には150人の参加がありました。おきなわCAPの代表であり、長田クリニック院長、解決志向アプローチ研究会の代表である長田清さんのゆったりとしてユーモアあふれる語り口にあっという間の2時間を過ごしました。沖縄のオバアが言う「なんですかね」は、原因追求の言葉ではなく「なんですかねえ、大変だね」という共感的な言葉。そしてオバア的「なんで、仲良くしたらいいさー」というのが、解決志向アプローチの考え方。問題は置いておいて、良くなること、解決の方向だけを考えましょう、と始まった長田さんのお話。今回と次回の通信で、講演の様子をお伝えします。

## いじめにはさまざまな誤解がある

★いじめられる子は弱い子、いじめられる子に問題があるというのは誤解です。誰でも被害者になるし、いじめられる子に問題を押し付けてはいけません。そしていじめは乱暴者、問題児がするという考え方もありますが、多くは普通の子が加害者になるし、いじめる子も一歩間違えれば被害者になるという状況があります。

★いじめというのはゆゆしき問題、犯罪として厳しく取り締まるべきという考え方があります。しかし、いじめる子を徹底して指導しても改善しないことはみなさん経験しています。やり過ぎるといじめた子が学校に行けなくなる、被害者になってしまふこともあります。

★教師がちゃんと子どもたちを見ていたら、いじめは防げる、学校がしっかりすればという考え方、教師の能力の限界を超える要求です。それに、あんまり厳しく監視しようとすると、いじめる側もいじめられる側も双方とも教師の目から隠れるようになります。

## 問題を追及する従来のやり方

小学校3年生の男子が友達にからかわれ、しょ

んぱり帰ってきました。母と息子の会話はたとえばこんな風になります。

母：どうしたの？いじめられたの？

息子：ううん。

母：うそおっしゃい、見ていたのよ、  
いじめられていたでしょ。

息子：うん、最近ケンタが、

僕のことを給食のプリンのふたに書いてある豚に似ているとからかうんだ。

母：まあ、ひどい、許せない。

先生に言いなさい。

息子：先生も似ているって。

母：なんてひどい。

新人で頼りないと思っていたけど、先生の資格無いわ、もう人権無視で校長に言うわ！

この子どもの欠点は、泣き虫、臆病、力が弱い、ちょっとしたことにもメソメソし、母親に依存的で何も言えないところです。いじめられても仕方ないところもあります。このお母さんの欠点は、過保護、過干渉、攻撃的、息子の気持ちも確かめず一方的に怒り、すぐに権力を行使し、息子を取り調べ吐かせ、息子に便乗して自分が怒って





いる、などです。

こんなふうに、何かあると普通は問題探し、原因探しをし、まず本人に問題があるという分析をします。そして親の問題も出てきます。親が怒りすぎる、甘すぎる、父親が暴力を振るう、酒を飲む、放任主義だ、片親だ。経済的に問題がある、などいろいろな問題を探します。

さらに家族の側からみると学校に問題があると見ます。教師が若くて慣れていないから何もできない、男性教師だからダメ、女性教師だからダメ、校長や教頭の管理がなっていない、現在の教育制度がダメと、いろいろと悪いところを見つけ出します。

このような問題探し（悪いところ探し）は、マスコミや評論家がいろいろ分析するためにするのです。でも分析する言葉をどれだけ並べ立てても何の役にも立ちません。頑張ろうという気にはなりませんし、こんなにも問題だらけではどうにもならない、という諦めの気持ちになるだけです。問題探しから解決は出ません。

### 問題に対する視点を変える

解決志向アプローチは、誰も悪くないという考え方をします。完全な教師もいないし、完全な親もいない、完璧な子どももいない。みんな良いところもあるし、悪いところもあるけど、それなりに頑張っている。だから、理想や完璧を求めすぎて期待し過ぎないようにします。この辺でいいんじゃないのと、そこそこの満足感を持つようにするといいのです。

そのために問題に対する視点を変えて、「問題の子ども」ではなく、「問題を抱えた子」と見る。子どもと問題は別。悪い子どもはいない、悪いところがちょっとある子がいる。ということは、良いところもたくさんあるということ。どの子も良いところがある。悪いところよりも良いところがたくさんある。そういう信念を我々は持っていたい

ものです。

解決志向アプローチでは、問題を抱えているお母さん、子どもがいても、その問題は見ません。先ほどのお母さんであれば、その良いところはどこかと見ます。子どもに愛情深く、息子の変化にすぐ気が付き、観察力があり、行動力があって、すぐ対応しようとしています。息子の長所も、嘘がつけず、正直にお母さんに話しているし、母親によく従うやさしい子で、友達にも暴力的にならず、いやなことを言われてもそれでも学校に通っている、辛抱強い子です。

そういう良いところを見て、解決志向アプローチ的に対応すると、たとえばこんな会話に変わります。

母：お帰り、どうしたの元気ないね

息子：うん、うん…、大丈夫…。

母：そう？ 大丈夫？

でも何でも困っていることがあったら話してね

息子：うん、最近、ケンタが給食のプリンのふたに書いてある豚に似ていると言ってからかうんだ。

母：そうなの？ それは嫌だね。

それであなたはどうしているの？

息子：別に。ただ黙っている。

母：そうか、耐えているんだ。

どうやって我慢しているの？

息子：うん？ わからん。

母：あなたは嫌なことがあっても、いつもなんとなくやりすごしているじゃない、それはどうやってやっているの？



息子：どうせケンタはすぐ別のことに夢中になるから。

母：そうなんだ、

相手があきるのを待っているのね、いい考えだね。

息子：うん、

黙っているとおもしろくなるみたい。

母：うん、それもいいね。

よく相手のことを観察しているね、他にも何かある？

息子：うん、お母さんに話すと気が楽になる。

母：そう、お母さんもうれしいわ、あなたが何でも話してくれるから。

お母さん、安心したわ。

あなたって結構しんぼう強いのよね。

お父さんにも話しておくわね。

息子：うん！

このお母さんは子どもの良いところを見ています。子どもの悪いところを直そうとしていません。子どもの気持ちを考えながら、子どもを認めています。すると子どもは自分の良いところ、うまくやっているところをお母さんに引き出されて自信を取り戻しました。

子どもを見て、”弱い何もできない子”と見るのではなく、”子どもは子どもなりに頑張っている”というふうに見ます。また、”どの子もその子ができる一番良いことをやっている”と考えます。それは、その状況の中ではその子がやっていることが精一杯のことだからです。ですから叱ることより、「大変だったね、あなたなりによくやったね」とねぎらってあげればいいのです。

子どもがいじめにあってきたというと、もちろん親も非常に動搖しますけど、親の感情よりも子どもの感情を優先して、こどもが自分の自尊心を育てられるように応援しましょう。

#### 励ますのではなくエンパワメントする（力を引き出す）

注意として、「しっかりしなさい」「がんばりなさい」「大丈夫だから」「できるから」「勇気をもって」と、励ますのはやめたほうがいいです。実はその意味は、あなたは「しっかりしていない」「がんばっていない」「できていない」「勇気がない」と否定していることになるわけですから。気持ちとしては愛情を持って使う言葉ですが、逆に子どもの無力感を引き出してしまうので使わない方がいいのです。

そうではなくて、CAPの中心思想の”エンパワメントする関わり”が大事です。子どもの力を引き出す、子どもが自分の力に気づくような関わりをエンパワメントと言います。「大変だね」「よくやっているね」「それっていいよ」と伝えてあげること、それが相手に自信を持たせることになります。認めて、ねぎらって、ほめる、こういうことの繰り返しがエンパワメントになります。

親や家族は子どもの良いところをいっぱい知っているはずです。注意する、直す、しつけるという気持を捨てて、素直に子どもの良いところを認めて言葉にしてちゃんと子どもに伝えてあげてください。



### アンケートから

●初めて会う人と話しをして、色々気づかされる事もあり、このような体験ができて本当によかったと思います。またこのような参加型の講演をしてほしいです。  
(10代・女性)

●最近、仕事でトラブルをかかえていたので、少し気が楽になりました。頭でわかった気になるのではなく、実践していきたいです。  
(20代・男性)

●気持ちがとても明るくなりました。いいところ探しから、できるなら解決思考アプローチも取り組んでいきたいと思いました。  
(20代・女性)

●原因追及をしないという始まりの部分から目からウロコが落ちました。解決志向という手法について、よく学べました。  
(30代・女性)

●子どもに接するときのヒントになった。相手から自分を認められることにより、子どもがいい方向に向くことが改めて感じた。  
(30代・男性)

●導入で、おばあの「なんでかね～」からはじまったのはわかりやすくよかったです。  
(60代・女性)

●いじめに対する対応法について、大変勉強になりました。また、解決志向アプローチの研究会に参加している気分になりました。  
(60代・男性)